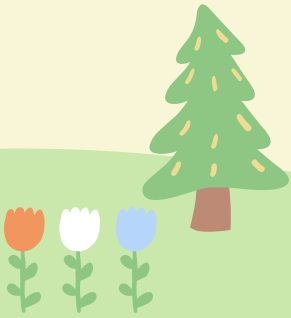




園内研修 实践事例



テーマ

ちよこつと園内研修 ～お昼寝時間を利用して～

目的

子どもの様子や保育について、毎日、職員間での共通理解を図り、自身の保育観を広げるとともに、職員同士の風通しをよくする。

概要

【進め方】

・午睡の時間に10～15分間、情報共有をする。

・内容

① その日の子どもの姿を話す

その日の子どもの姿から話すことを基本とし、出来事や職員の援助、思いなどを共有する。

*保育カンファレンスシート(P.46参照)などの利用も考える

② 困ったことや気づきを話す

子どもへの対応などに困った職員が様子を話し、他の職員の意見を聞いたり、お互いの気づきを出し合ったりして、些細なことでも情報交換して不安が残らないようにする。

③ 保育内容について話す

情報交換も含め、午睡後の保育の流れを確認したり、行事に向かったの保育活動の流れなどを話したりする。

【メリット】 短時間の活用でチームの関係性が築かれ、明日の保育につながる。

・日々の午睡時間を活用することで、1回は短時間だが継続的な積み重ねができる。

・日常的に行うことで、互いに構えることなく話すことができ、積極的に参加できる。

・一人では読み取れなかった子どもの様子を担当者全員で共有でき、子ども理解が進む。

【めざすこと】 保育の質や同僚性(職員の良い関係性)の向上につながることを意識化する。

・「おしゃべり」から「語り」へ

継続することで、言いたいことを整理して話したり、聞き手を意識して話したりするようになり、内容が深まっていく。例えば、漠然とした話し方から、子どもの気持ちや自身の援助についての考察も加わり、前向きな捉え方や支援の方向も含んだ「語り」に変化していく。

・育ち合い学び合う保育者集団に

子どもや保育について話すこと、自分の思いや考えを語ることが当たり前となり、構えることなく自然体で言葉が出てくるようになる。また、話題となった子どもそれぞれのよさを共有したり、それをどう感じて関わっているかという、その職員のよさを認め合ったりできる。職員同士の風通しがよくなり、自分自身の保育を振り返る機会にもなって、チームワークのよい、学び合う保育者集団が形成される。

内容

【ある日の2歳児クラス(2歳児18名 保育士3名)の「ちょこっと園内研修」】 13:20~13:35



他クラスで感染症の子どもが増えているよね。消毒の方法を今一度、確認しましょう。



雨が当分降らないようだから、お部屋の加湿と職員の手指消毒も念入りにしないとね。

引き続き子どもたちの手洗いの徹底と便座やおもちゃの消毒が必要ね。

きょうだい関係での広がり不安だけど、他クラスの先生方とも連絡し合って細やかに子どもたちの様子を見ていきましょうね。



そう言えば、今朝は〇〇ちゃんが泣いて登園しましたね。

先週がお休みだったから、体調が万全ではないのかしら？



私、〇〇ちゃんのお母さんの表情が、最近何となくすげないなあという感じを受けていました。



お母さんにもそれとなくお尋ねしてみましようね！

そうなのね。〇〇ちゃんもお母さんも、体調的にすげないとか、何か気になることがあるとか…なのかもしれませんね。進級に向けていろいろな活動が続いているけれど、一人ひとりを丁寧にみていきましょうね。

何となく感じていたことですが、お話できてよかったです。安心しました。



略

振り返り

午睡時に日々、担当職員で情報交換や保育の振り返りができるので、安心して保育をすることができ、関係性を築くこともしっかりできている。

この日は感染症への対応から始まり、登園時に気になる様子だった子どもについて、進級行事について、ひな祭りの製作物の相談まで話がどんどん進んだ。限られた時間内では情報交換が多くなる傾向があるのだが、一つの事柄をじっくり話す日を意識的に設け、子どもの姿を複数の目で捉え直すことも心がけている。

しかし、このような日々の振り返りは当たり前のこととの認識から、それが「保育の質の向上」や「保育者同士の同僚性を育むこと」につながっていると気付いていない面もある。「ちょこっと園内研修」として捉えることで、日々の積み重ねが大きな成果につながっていくことを意識していきたい。

テーマ

環境構成を園全体で共有しよう ～マップ作成を活用して～

目的

子どもたちが主体的に遊びに向かうための環境構成を園全体でどのように共有するのか、マップ作成から考えていく。

概要

子どもたちが園庭で遊ぶとき、クラス内で広がっている遊びだけでなく、個々の興味・関心に合わせて好きな遊びを選べる環境をつくっていきたい。
園庭のどこでどのような遊びができるのか、子どもにも分かりやすく伝えるための取り組みを始めた。

内容

【テーマの共有】

- ・担任は、子どもたちが興味をもっているものの中から毎月の遊びのテーマを決める。
- ・各クラスから出てきた毎月の遊びのテーマを全職員で共有する。
- ・共通するテーマだった場合は一緒に環境を準備し、職員同士の関わりも深める。

【マップ作成】

環境構成グループが3月の園庭のマップ「3がつなにしておそぶ？」を作成する

環境構成グループとは

→0歳児～5歳児のクラス担任10名で構成されたチーム

緑の葉っぱをいっぱい見つけてね



春探しの図鑑や虫眼鏡を準備しているよ

作成後は玄関横の大きなガラス窓に貼る



園庭のどこでどのような遊びができるのか、子どもたちに分かりやすく写真と文字で表示する



もうすぐ卒園する年長さんへのメッセージコーナーをつくろう

【マップ掲示後】

随時、職員と子どもたちがメッセージ(思いやアイデア)を書き込んでいく

先生たちからのメッセージも書き入れる

ここで 10時からペープサートをするよ！遊びに来てね



「あっ！ここ楽しそう」「今日はここで遊ぼう！」
子どもたちは外に出ると、マップを見ながら自分の興味・関心に合わせて遊ぶ場所を考えている

ここでケーキ屋さんをオープンしています
飾りに使うきれいなお花があったらもって来てください



子どもたちが発見したことや楽しかったこと、できるようになったことなどを書いて友達にも伝えられるようにする



子どもたちからのお願いや友達に手伝ってほしいことなども自由に記入していく

振り返り

成果としては、マップを作成し掲示することで、子どもと職員だけでなく、お迎えに来た保護者にも遊びの広がり共有することができた。園で体験した遊びを子どもが家で話した際、写真や文字で掲示されているマップを保護者が確認できているため、伝わりやすくなり、家庭での会話が増えたとのことだった。

また、可視化することにより、園庭全体を生かして遊んでいるか、必要な物や数が十分に準備されているかなど、職員が環境構成について意識を向けることができた。その結果、子どもたちの「やりたい！」という興味・関心を引き出し、夢中になって遊ぶ姿が見られるようになった。

今後もマップを活用し、遊びの広がりを子ども・職員・保護者が共有しながら、子どもたちの興味・関心を引き出して遊び込める環境を充実させていきたい。

テーマ

保育を振り返ろう ～ドキュメンテーション作成～

目的

子どもたちの様子や保育者の対応など、伝えたいことをドキュメンテーションとして作成し、持ち寄ることで見えてくる保育に対する考え方などを職員が共有したり、保護者に子どもの成長を発信したりしていく。

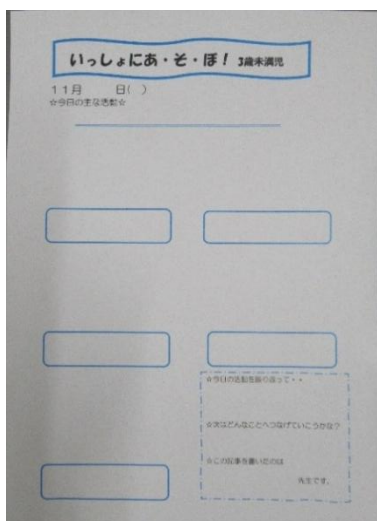
概要

園で初めてのドキュメンテーションの取組を行う。

まずは1か月間限定で毎日5枚程度、今日の子どもたちの活動で伝えたいこと・知っておいてもらいたいこと・その日の活動に対しての子どもたちの反応等をテーマにして写真を撮り、それをもとにドキュメンテーションを作成し、保育を振り返ることにした。

内容

【ドキュメンテーションの作成】



簡単に作成しやすいようにと「いっしょにあ・そ・ぼ」という様式(左写真)をつくった上で、写真5枚を厳選しコメントを記入したドキュメンテーションを作成し、クラス前に掲示した。

「写真を5枚選んで撮影と言われても、伝えたい場面がたくさんあって・・・」と指定した枚数の倍以上撮る職員もいて、写真を厳選するために時間がかかった。

保護者に見てもらうため、担当職員のコメント記入も言葉を選んで書かなければならないという意識が働き、想定以上に時間がかかった。何度か経験することで、始めた当初より載せたい内容も考えて撮影することができるように変化していった。

【作成にあたって】

担任職員だけではなく補助職員も交替で写真を撮った。

特に未満児クラスは複数の担任なので、「一人の眼で見ただけではなく違った目線で子どもたちの様子を知ることができた。」「作る過程では、子ども一人ひとりの活動をじっくり観察したり、他の子どもとの関わり方を再確認したりできた。」という意見が出た。



以上児



未満児

分かりやすいようクラスの入口に貼り出す

【保育を振り返る】 掲示した2週間分のドキュメンテーションを持ち寄り話し合う。



3歳以上児と3歳未満児に分かれて“なぜこの場面を選んだのか？”の話し合いをする。

「子どもの目線に立って撮った」「先生とのやりとりを撮った」と写真を撮るときの考え方も違いがみられた。一日の活動の中で、なぜこの場面を選んで保護者に伝えたいと思ったのか？ということや、同じ場面でも担任と補助職員の見ている視点の違いなどが見られ、お互いに見えていない部分が分かって共有することができた。同じ子どもが何度も出てきて、その日の遊びの流れが読み取れた。

保護者の反応はどうだったか？

- ・ 実際の写真とコメントを見ることで、子どもたちがどのような活動をしていたか、どんな反応があったのか、どんな表情をしていたのか、など環境設定や友達関係などが分かり、職員が伝える内容や状況が理解しやすかったという意見があった。
- ・ 朝は時間が取れない、夕方は子どもたちに気を遣いながら見るのが難しい。家に帰ってゆっくり園のホームページを見る方が見やすいという意見もあった。



振り返り

1か月間のドキュメンテーション実施だったが、今後、作成を継続するかどうかを話し合った。

<ドキュメンテーション作成のよい点>

- ① 保育を振り返る手段として、子どもの様子をじっくりと観察することができ、次の保育活動も考えやすくなった。
特に今回は、補助職員がどのように補助をして子どもたちのことを見ているか、また、同じ場面においても違う目線で子どもの姿を追いかけており、職員同士でも保育に対する考え方や、子どもの見取りや感じ方が違うことが理解できた。
- ② 保護者に保育活動を伝える手立てとなった。
「こんな感じで活動に参加していますよ。」など、子どもの様子を言葉で伝えるよりも、実際に写真を見せることで、より伝わりやすかった。
- ③ 子どもたちも写真の他の子どもの様子を見て、真似してやってみようとしていた。

職員の作業は、5枚の写真を選び、子どもの様子のコメント記入をするという2点にしたが、勤務時間外に時間を要した。作成する時間をどのように確保するかを考えると、続けることは負担になるという意見も出た。これらの課題に向き合いながら今回の取組のよい点を広く職員に周知し、今後はHP やクラス便り等にも反映させ、ドキュメンテーションにも年に数回、取り組みたいと考えている。

テーマ

保護者対応について考える
～ラベルワークを用いて～

目的

若手を含め、保育者それぞれの思いを引き出し、よりよい保護者への対応を共通理解し、チーム力の向上を図る。

概要

【本園で実施しているチーム力を生かした保護者支援】

・「ママ専用アドバイザー制度」～担任以外のアドバイザーを指名して自由に面談ができる制度～

相談の具体例としては、多子世帯の子育て、進学先について、家庭内のしつけ、卒園後の友達関係等

→アドバイスを受けた満足感よりも、話を聞いてもらったことへの満足感、またいつでも聞いて貰えるという安心感につながっている。担任と情報共有し、チーム保育につなげている。

・保護者対応の手助け～新任や若手保育者の保護者との個人面談時に先輩保育者が同席する等～
傾聴や共感の仕方、伝え方、ことばの選び方などの対応方法を学ぶことができる。電話対応の際には、あらかじめ内容や受け答えを先輩に相談し、電話中も隣で助言をもらう。

→先輩と若手が一緒に保護者対応をしていく中で課題を共有することで、互いの距離が縮まり、信頼関係が増して、若手から先輩に相談しやすい関係性を築くことができる。

・保護者対応研修⇒ [内容](#) へ

内容

【保護者対応について、ラベルワークを用いた職員同士の話し合い】

まず、保護者対応を考える上で6つの項目をあげて各保育者に問いかける。

それぞれが付箋に事例を記入し、一週間後の園内研修日(1回目)に提出できるよう準備しておく。

項 目	① 困ったこと(若手のころ) ② 保育者間で助けられたこと ③ 対応の際、気を付けていること、大事にしていること ④ 今、現在困っていること ⑤ 今後、保護者対応で考えられること ⑥ その他気付き
--------	---

- 【研修日1回目】
- 台紙にある項目にそれぞれが付箋を貼る。
 - 各保育者は、自分以外の意見や考えを読んでおく。
 - 保育者が常時見られるよう職員室に台紙を貼り出しておく。
 - 項目の中で似た内容をグループ分けし、意見を整理する。



・保護者対応の際、「気を付けていること」「困っていること」の両方の項目に共通の意見として「伝え方」が多かった。

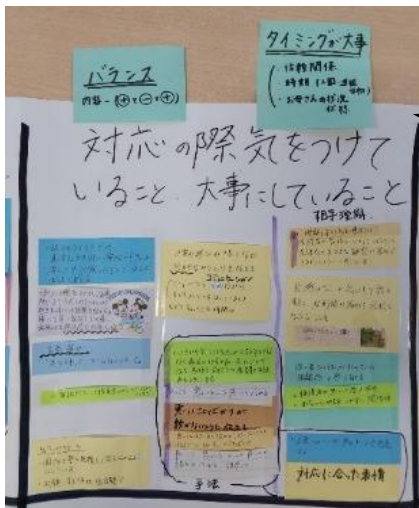
- ・相談事に共感的に寄り添い、こちらの思いを伝える
- ・保護者との思いの違い ・新任時代の保護者への対応
- ・支援が必要な子どもについて

○話し合いの項目を絞り、2回目の園内研修までに自分の意見や考えをまとめられるように投げかける。

2回目は、項目③の「対応の際、気を付けていること、大事にしていること」について話し合えるように

【研修日2回目】 ○理解を深め、保護者への対応を共通理解することができるようにする。

・「伝え方」について自分の経験や考えを出し合う。



<対応の際、気を付けていること 大事にしていること>

- ・伝えるタイミング ・伝え過ぎない(伝える内容を選ぶ)
- ・伝えにくい内容は、よい内容でサンドイッチ
- ・事前に保育者間で内容を確認してから伝える

・他の保育者の意見を聞き、学びと確認の時間をとる。

- ・言葉選びや言い換え(リフレーミング)の事例を出し合う
- ・保護者との日々のコミュニケーションの重要性を確認し合う
など改めて学び合う場となった



振り返り

6つの項目を設定して事例を集め、考えを出し合うことで保護者対応のポイントが見えてきた。「伝え方」についての迷いや悩みは世代に関係なく課題としてあった。事例を持ち寄ることで、今後の対応のヒントを与え合い、対応の上で大切にしている共通項も見えた。

今後は、今の時代に即した保護者対応が求められることも踏まえ、情報収集と共通認識が大切であるということも確認できた。

園内研修の進め方としてラベルワークを用いることで、自分の思いを予めまとめて持ち寄り、研修の時間短縮にもなった。また、職員室に貼り出しておくことでクラス担任以外の職員も目を通すことができた。この手法を今後も活用して保護者対応のチーム力アップにつなげたい。

テーマ

子どもの主体性を求めて ～「主体的な保育」について園全体で考えよう～

目的

子どもたちが自分の好きな遊びを見つけ、主体的になる保育を実践するために、保育者はどのような環境構成等を行えばよいか、写真や動画を持ち寄って考え合う。

概要

【昨年度までの振り返り】

- ・各クラスが活動時間に一つの活動を設定し、全員で同じことを行う。
→担任が何をするか決め、やりたくない子や苦手な子も強制的にしなければならない状況になっていた。
- ・縦割り保育の日を決め、3・4・5歳児が2時間ほど、一緒に活動を行う。
→縦割りには分かれているが、結局同じクラスの子と遊ぶ傾向にあった。(活動内容にもよる)
- ・担任からの指示で動くことに慣れ、子どもたち自身が考える機会が少ない。
→一斉保育を行うとどうしても指示をしなくてはならない。

【どんな保育をしていきたいか？】 ➡ 子どもが主体的に遊ぶ姿を求める

- ・子どもが自ら考えて遊びを選び、自分たちで発展させられるような保育をしていきたい。
- ・子ども一人ひとりが、好きな遊びを見つけ、輝けるような保育をしていきたい。
- ・子どもが自分から発言し、毎日が「楽しい！」と登園を楽しみにするような園生活にしたい。

【どうやって理想の保育をやっていくか？】

- ・子どもが主体的な保育をしている園を実際に見に行き、保育者自身が学ぶ。
そこから自園で取り入れられることはないか、工夫できることはないか園内研修や職員会議の他、すき間の時間も活用して話し合う。⇒ **内容** へ
- ・自園でできそうなところから取り入れ、実践してみる。
- ・園全体で取り組むことなので、園長・主任・副主任で軸を作り、挑戦しようとしていることがぶれないように徹底する。
- ・正職員だけでなく全職員の理解が進むよう、決まったことは書面や連絡ツールの活用、口頭でパート職員にもその都度伝える。
- ・自分たちが行っている保育を様々な方に参観してもらう。乳幼セや系列園の先生方の参観後に、助言や評価をもらう。

内容

【実践の写真や動画を持ち寄り、ねらいや子どもの様子、改善点等を職員会議で話し合う。】

《ある日の一日》

「ウキウキタイム」と名付け毎日 9:00～11:30、3・4・5歳児が好きな場所で好きな遊びをする時間を設ける。

《遊戯室》 感触あそび ～氷、高野豆腐、はるさめ、片栗粉粘土、寒天等を使って～

氷、つめたいね！中にあるポケモンを助けよう！！



スポンジみたい！ちょっと匂いもするね。



- ・触ることをためらう子どももいたので、袋やストックバッグに入れたものもあつたらよいかも？
- ・寒天は色を全部混ぜてしまい、すぐに黒くなってしまった。後で来た子どもの中には、「汚いから嫌。」という子どももいた。

《ゆり組》 ままごとやごっこ遊び

- ・ゆったりとした雰囲気をつくり、それぞれが思い思いに遊ぶことができた。
- ・細々したおもちゃが多いので、3歳児は片付けが難しい様子だった。おもちゃの精選が必要だと感じた。



これをこうしたら、いいよね！あれも作ろうよ！

《きく組》 製作コーナーや作ったもので遊ぶコーナー

- ・自分がイメージしたことを製作で表現できている。
- ・3歳児に途中で壊されたり、邪魔されたりすることがある。どうしたらよいかを検討する。



振り返り

このように写真や動画を見ることで、実際に見ていなくても、違うクラスの様子が分かり、お互いに色々な意見や考えを伝え合うことができた。また、研修中の雰囲気等をよくするには、ファシリテーターの導入の仕方や話し方がポイントだと思い、アイスブレイクを取り入れたり、全員から意見が聞けるように問いかけてみたりした。しかし、急に発言を促されることで緊張したり意見を言うことが苦手だったりする職員もいると思うので、その点への配慮も必要だと感じた。

関係するクラスだけのミニ研修のようなものを週1回15分程度でもできたらよいのかなとも感じている。職員の負担にならないように配慮しながら進めていきたい。